

岩手県の市町村単位を DMU, 産業と公務を入力項目, 雇用者所得と企業所得を出力項目として, CCR モデル, ならびに BCC モデルによる DEA 分析を行った。

(7)「労働者の移動に関する統計的考察」

細越雄二 (埼玉大学)

労働市場の職種間の移動をマルコフ連鎖としてモデル化し, 労働移動の構造を分析した。

● AHP の理論と実際 ●

・第 5 回

日 時: 1 月 30 日 (火) 14:00~17:00

出席者: 23 名

場 所: 勸電力中央研究所大手町第 2 会議室

(千代田区大手町 1-6-1 大手町ビル 7 階 734 室)

テーマと講師:

(1)「逆向き AHP とその応用」

八巻直一 (静岡大学)

代替案のウエイトを先に決定し, その一対比較行列を推定することにより, グループ AHP での合意形成をねらった逆向き AHP について述べた。さらにその応用例として, 選挙, 需要予測, 人事評価の 3 例を取り上げた。そして, 特に人事評価における大規模なグループ AHP に有効であることを示した。

(2)「支配型 AHP と一斉法」

木下栄蔵 (名城大学)

従来型 AHP での問題点として, 代替案ウエイトの正規化と外部従属の独立性を指摘し, その改善として, 支配型 AHP を提案した。支配型 AHP では代替案, 評価基準の一つをベンチマークとした支配代替案法, 支配評価水準法の考え方を説明し, その解法である一斉法について述べた。

● 待ち行列 ●

・第 155 回

日 時: 2 月 17 日 (土) 14:00~17:00

出席者: 24 名

場 所: 東京工業大学 西 8 号館 (W) 809 号室

テーマと講師:

(1)「待ち行列ネットワークにおける定常分布の裾の減少率: 既存の結果と予想」

宮沢政清 (東京理科大学)

積形式解を持たない待ち行列ネットワークの定常状態における待ち人数の結合分布の裾の減少率について報告された。最初に多次元分布の裾の減少率の定義が与えられ, その後, 一般化ジャクソンネットワークにおける待ち人数の結合分布についての減少率に関する予想が述べられた。また, この予想によって既知の結果が説明できることが示された。

(2)「決定論的インターネットトラヒック評価」

豊泉 洋 (会津大学)

トラヒック理論や待ち行列理論では, ユーザーの振る舞いや入力トラヒックを確率過程としてモデル化することによって, さまざまな通信システムのモデル化を行い, 成功を収めてきた。講演では, こうした方法論とは異なり, インターネットでの遅延上限値算法として発達してきた決定論的な性能評価手法が紹介された。また, Block renewal process と組みあわせることによって, 確率的な枠組みとも整合できることが示された。

---

会 合 記 録

2 月 6 日 (火)

表彰委員会

10 名

---